i 出会いふれあいインフォメーション

同窓会

■東北学院同窓会東京支部総会・懇親会 10月12日18時半、霞が関ビル35階・東海大学校友会館（千代田区、虎ノ門駅や霞ケ関駅など）。東北学院の中高大の卒業生が対象。会費1万円。支部長佐々木憲夫03・3986・7841

「大好き！」相模原市・中村哲雄さん

■秋田県立秋田北高あげまき会東京支部総会 10月13日11時半 アルカディア市ケ谷（千代田区、市ケ谷駅）。会費7000円、年会費1000円。横川047・316・1478

■愛知県立昭和高東京同窓会総会 10月13日正午～15時半、高輪和彊館（わきょうかん、港区、品川駅か高輪台駅）。37回卒業生のアニメ監督、谷口悟朗氏の講演を開催。会費7000円、1988（昭和63）年3月以降の卒業生5000円、学生2000円。荻須一致090・3472・7436

■岩手県立大船渡高同窓会関東支部 10月13日15時 レストランオックス（荒川区、日暮里駅）。会費5000円。上田090・2223・2746

県人会

■第51回東京新見会 10月7日10時～14時半、アルカディア市ケ谷（千代田区、市ケ谷駅）。岡山県新見市出身者かゆかりのある人。会費は会員が男性8000円、女性7000円。家族（中学生以上）や友人3000円。幹事西村和子03・3781・5608

ふるさと情報

【前橋市】まえばしクリテリウム 9月29日11時半～15時半（群馬県庁前など、JR前橋駅）。公道を使った短い周回コースを何周も回り順位を競う「クリテリウム」の大会。プロ、アマ数百人が、最高時速70㌔で駆け抜け、迫力ある走りを観戦できる。翌30日は市街地から赤城山頂へ坂道を走る「まえばし赤城山ヒルクライム」を開催。実行委027・289・4764

【仙台市】みちのくYOSAKOIまつり 10月6、7日9～20時、市中心部など。全国から約150チーム、約5000人が参加。7会場（予定）で、カラフルな衣装の踊り手が木製の鳴子を響かせ、舞う。各会場とも無料で観覧でき、メイン会場の市民広場には有料の桟敷席も用意される。実行委022・268・2656

「同窓会」「県人会」「旧友会」の掲載を希望される方は、開催の1カ月前までに資料を〒100−8051（住所不要）毎日新聞地方部遊軍係に郵送してください。カット用のイラストや写真も募集中。掲載作は本社電子媒体にも収録します（掲載分には記念品を贈呈）。資料・作品は返却しません。ファクス（03・3212・0483）

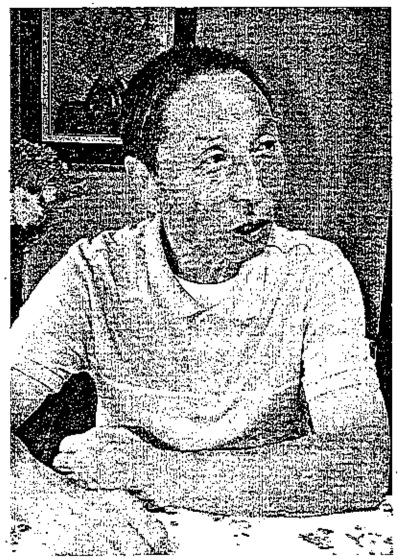
くるっと東北　母校をたずねる

つながりの大切さ学ぶ

県立山形南高 ⑧

同窓会会長 荒井満さん ＝1965年度卒

山形市体育協会会長の荒井満さん(70)＝16期、1965年度卒業＝は、県立山形南高校の同窓会会長として全国約2万1000人の卒業生を束ねる立場です。在校中は応援団員として、青春を謳歌（おうか）しました。高校時代に「人とのつながりの大切さを教えられた」と語ります。【浜名晋一】


あらい・みつる 1948年、山形市出身。青山学院大卒業。71年、山形市役所に入庁し、副市長などを歴任。現在は同窓会会長のほか、山形市体育協会会長を務める。

2年の時、初めての南高祭がありました。2日後の10月10日が東京五輪の開会式だったので、よく覚えています。たまたま、知り合いからチケットをもらい、学校をサボって、東京の国立競技場でサッカーのハンガリー対モロッコ戦を観戦しました。

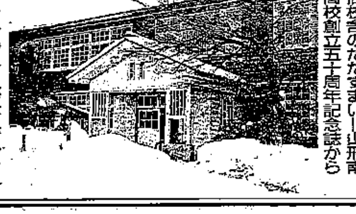
南高祭では水泳や柔道などのクラスマッチで勝つと数千円の賞金が出ました。河原でやった芋煮会の材料費に充てましたが、クラスを挙げて盛り上がりました。クラブ活動では応援団に入り、旗持ちもしましたが、もっぱら応援歌「空はコバルト」のリード専門です。練習は厳しく、校内にあった土手の上に並んで、校舎まで聞こえるくらいの声出しをしました。

高校時代は「デカンショ（高下駄）」と詰め襟の制服、制帽で通学していました。女子の入学者がいないので、気配りする必要がありません。パンツ1枚でトイレに行ったりとかね。身だしなみをちゃんとしないと女子に悪い印象を与えるとか、そういう心配がありませんでした。

修学旅行は関西に行き、帰りは上野駅で解散でした。親戚などの身元引受人がいれば東京で遊んで帰れました。ジャズ喫茶とかに行き、おおらかな時代でしたね。

関西、東京、仙台市などの同窓会の会合に足を運びますが、離れれば離れるほど、母校に強い思いを持っていることが改めて分かります。とにかく熱いのです。

先輩・後輩の縦の意識も強い。南高の卒業生は卒業年度は言わないし、分かりません。でも「南高何回だ？」「16回です」というだけで、すぐ分かります。それだけで、自分より何年上か下か単純に計算できます。


旧校舎のたたずまい＝山形南高校創立五十周年記念誌から

多感な3年間を、飾ることなく、本音で付き合った青春時代だったと思います。高校生活を通して、人の輪、ネットワーク、人とのつながりの大切さを教えられました。 ＝おわり

次回から青森県立田名部高校編です

「母校をたずねる」は10月から青森県立田名部高編（むつ市）を連載します。

お茶の水女子大の師弟 本出版

ご当地グルメ ルーツは？

地理学生かし解説

全国のご当地グルメのルーツを明らかにしようと、お茶の水女子大で地理学を専攻する師弟コンビが「地理女子が教えるご当地グルメの地理学」を発刊した。「町おこし」のイメージが先行しがちなご当地グルメの背景や地域性に注目。自然環境など地理学の視点から解き明かし、ご当地グルメをより味わい深くさせる1冊だ。【飯田憲】

著者は、同大で地理学を教える長谷川直子准教授(44)と、同大4年の尾形希莉子さん(21)。地理学の面白さを発信しようと、ご当地グルメをテーマにした本の執筆を考えていた長谷川准教授に「食べ物には目がなく、旅先では名物料理を欠かさない」という尾形さんが手を挙げた。

約1年半かけて資料を集め、全都道府県のご当地グルメをピックアップ。「石狩鍋」（北海道）「深大寺そば」（東京都）など古くから伝わる郷土料理をはじめ、「フルーツパフェ」（岡山県）のような比較的新しいグルメまでさまざま。自治体ごとに1品目を大きく取り上げ、そのほか数品目をエッセーで紹介した。

師弟コンビでご当地グルメをテーマにした本を出版したお茶の水女子大の長谷川直子准教授（右）と同大4年の尾形希莉子さん＝東京都文京区で

興味深いのは、食材と地理的な条件との関連性だ。例えば、海藻を煮詰め乾燥させた「角寒天」。海のない長野県諏訪地方の名産品だが、自然の気候を利用したフリーズドライ製法が可能で、さらに伊豆の海から馬で海藻を運べる距離の限度内に位置していたという。

ほかにも、船運に恵まれていた山形では京都との交易が盛んだったため、京都料理の手棒が持ち込まれ、山形名物の芋煮誕生につながった説など、食材の産地と別の要因で名産になった事例も多数盛り込んだ。

「ご当地グルメは『安さ』や『町おこし』とは違う意味合いで、その土地の特徴や先人の知恵が詰まっている」と長谷川准教授。尾形さんは「身近なものの裏側を知ることが地理学の魅力。全国の食べ歩きに興味がある方は活用してほしい」と話す。ベレ出版。1728円（税込み）。

ベストセラー　山形市―八文字屋調べ

①コーヒーが冷めないうちに（川口俊和、サンマーク出版）
②マスコミ偽善者列伝（加地伸行、飛鳥新社）
③思い出が消えないうちに（川口俊和、サンマーク出版）
④おしりたんてい みはらしそうのかいじけん（トロル、ポプラ社）
⑤医者が考案した「長生きみそ汁」（小林弘幸、アスコム）
⑥頭に来てもアホとは戦うな！（田村耕太郎、朝日新聞出版）
⑦おもしろい！進化のふしぎ続々ざんねんないきもの事典（今泉忠明、高橋書店）
⑧かみさまは小学5年生（すみれ、サンマーク出版）
⑨ナナメの夕暮れ（若林正恭、文芸春秋）
⑩ゼロトレ（石村友見、サンマーク出版）